

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム のぎく
所在地 (県・市町村名)	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1949番地
記入者名 (管理者)	福岡桂子
記入日	平成19年10月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をつくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が安全に明るくたのしみなごやかに生活できるよう日々支援している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居時説明している。また、面会者等にも理解していただくためにわかりやすい言葉で表示している。	○ 地域の人々に理解してもらえるような機会を持つことを検討していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	子供110番の旗をあげて、子供たちにも気軽にもらえるようにしているし、いつでも誰でも立ち寄ってもらい、お茶などをだして快く受け入れている。入居者も話相手が出て喜ばれている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やもちつき会及びイベント等に参加させて頂いている。施設の行事に参加し地域の人々との交流を図っている。	○ 地域の敬老会等に参加できるように家族に働きかけていきたい。地域との交流として今年度地元米多地区の浮立に参加していく予定(10月20日)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>グループホーム運営推進会議で検討しているところ。</p>	○	地域貢献については、ホームの力を生かして役立てたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>スタッフ1人1人が自ら評価を行い、気づいたことについて改善している。外部評価時、指摘を受けたことについては直ちに改善して資質の向上を目指している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>事業計画や事業実績の報告を行い意見交換時に出たサービス向上のための内容については取り込んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>わからないことは、相談し、指導を受けサービス向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>必要性が生じた場合は支援していく。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>研修で学んだスタッフもおり、全スタッフが虐待防止については理解しており利用者本意の運営に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する文書やパンフレットにそって説明している。また、不明な点についてはいつでもたずねて頂けるような雰囲気であるように努めている。	
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に気軽に話していただける環境であるように努めている。意見が出た場合はスタッフ間で話し合い納得が得られるような改善を行うように努めている。	
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回広報紙「野菊だより」を家族に送付している。事故・病気等は直ちに家族へ連絡及び報告している。日常的な事については、面会時に報告し、長期に面会もない家族へは電話で時々報告している。	
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。出来るだけ口頭で意見を伝えていただくよう言いやすい環境であるように努めている。	
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	母体での職員会議や毎月ホームでのスタッフ会議で意見を出し合い運営や業務に活かしている。	
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1ヶ月のスタッフの勤務を作成しているが必要な職員の確保について、業務状況に応じて確保出来るよう調整している。	
18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設内外の研修会等に出来るだけ参加できるように勤務調整して参加し職員の育成を図っている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県内でのグループホーム委員会やホーム長との意見交換会に参加し他ホームの見学を含めた勉強会にてサービスの質の向上に取り組んでいる。また、近隣のグループホームの行事に参加させていただき、交流を行い、当ホームのサービス向上に努めている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員互助会の活動参加、及び私的活動参加が出来るように勤務の交代を認めて休暇が取りやすいようにしている。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個別性を尊重した業務分担により各自が働きがいを感じてもらおうように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	電話での相談では良く話しを聞き相手の希望にそえるようにアドバイスしている。また、見学の機会を得て直接話しを聞き相談できるように努めている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族の意向を良く聞き、ホームで出来ること、出来ないこと等具体的に話して理解してもらい家族の意向は出来るだけうけとめるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームのサービス利用だけでなく、現在の本人に最も必要なサービスが他にあればそのことも説明し理解してもらい本人、家族にとって一番よいサービスが受けられるように対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人に見学にきてもらう。・本人に一日体験してもらう。・本人に一泊体験してもらう。本人及び家族の納得の上で入居される事を基本としている。	○	一日体験のプログラムを組みグループホームを理解していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ食事を一緒に食べ、何事にも一緒に行動し、常に寄り添いながらの介護であるので会話の中で年長者から学ぶことも多く、人生の先輩として接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとっては家族の愛情が生きる支えであることを家族の方に理解していただくよう面会時等に話している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前のことについて詳しく知ることは難しいが入居後は、家族との関係がいつそうよい関係になるように努めている。年2回家族を招待して食事会を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にきやすい環境であるように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の性格を把握し、お互いの関係が悪化しないようにテーブルの席順等を考慮し助け合いの精神が育つよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他のサービス事業所へ行かれた方への面会。時々は入居者との交流あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も本人本意で検討することを基本としているが困難な場合は家族と相談している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに反しない程度に、家族の面会等に聞き取りをして、より良い支援ができるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者ひとりひとりの現状の心身状況を把握して個別援助を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、看護師を含めたスタッフで検討し、本人が安心して楽しく暮らしていくための介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価し、心身状態の変化に応じて見直しを行い現状に即した支援が行えるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や出来事は昼間の出来事は黒字で、夜間の出来事は赤字で、叙事的経過記録様式で記録し介護計画書の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族の依頼で病院受診につきそったりまた、家族にかわって病院受診付き添いを行うこともある。・そのときの状況に応じて本人の希望及び家族の要望にこたえるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの受け入れを行い協力を得ている。・地域の文化祭に参加させてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・特養施設行事に参加させてもらっている。・デーサービスセンター行事に参加させてもらっている。また、毎週土曜日のレクリエーションに参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地元地域包括支援センターの職員に運営推進会議のメンバーに入ってもらっているので相談・協力を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別にかかりつけ医師の診察をうけられて、適切な医療を受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	医師とのスムーズな連携が望まれる
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりの人格を尊重した言葉づかいを行っている。また、記録等は固有名詞を使用しない等プライバシーの保護にはスタッフ全員徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	何をしたいのか、訴えたいのか声かけを多くもち働きかけている。本人の意思を尊重して支援していく。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日常生活のペースを把握してその人らしく希望にそって生活していけるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・本人のなじみの美容室にてパーマをされている。・外出時は外出着に着替えて気分転換を図っている。・日常的に身だしなみに気をつけて支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者の力量に合わせて、調理に参加したり準備や片付けを手伝ってもらっている。・スタッフも同じ食事を一緒に食べながら味の評価をし楽しい食事をとるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・毎日ビール1缶を飲むのを楽しみにされている方もいる。・毎日10時と3時のおやつ以外にのぞまれるかたには夕方適量を渡している方もいる。・厳しい制限はしないようにしているが健康管理に注意して本人の希望にそうように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・個別の排泄パターンを把握し、昼夜トイレ介助を行い、出来るだけトイレでの排泄を基本として支援している。・排泄記録チェックするようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・家庭の習慣が保たれるように、夕食後の夜間入浴で安眠を促している。・1対1の入浴でゆっくり楽しんで入浴されるようつとめている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・居室の灯りがまぶしくないようにカーテンで遮光し安眠できるようにしている。・リビングにソファや畳を設置しているので横になって昼寝等の休息できる状況である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・入居者ひとりひとりの力量にあわせて役割分担として家庭菜園や花壇の手入れ、洗濯物たたみゴミ袋折り、テーブル拭き、食器洗い等があり生きがいとして楽しみながらされている。・外出の機会を多く持ち気晴らしできるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小額を所持されてショッピング時に自分で支払ってもらうこともある。・紛失の危険性もあるが所持を希望される方については家族の理解を得て小額所持してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日屋外散歩。・希望に応じて屋外散歩。・週1回は歩行移動にてデイサービスセンターへ。・月1～2回車で移動して施設へ出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族付き添いでの外出はいつでも自由行動に出来るように支援している。・家族以外との外出については家族の許可を得て行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は、いつでも自由にホームの電話を使ってもらっている。 ・クラブ活動で絵手紙を行っているので年賀状や暑中見舞を家族に送り、家族からの返事も届いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会は快く迎えて、お茶の接待をし入居者とゆっくり面談できるように努めている。 ・和室でゆっくり面談できる設備もあり利用してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行わないことを基本としている。 ・ベッド柵等必要な事が生じた場合は家族の了解を得た上で行うこととしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・カギをかけないケアを基本としている。 ・徘徊者対策として玄関にチャイムを取り付けているのでチャイムが鳴ればすぐにかかけつけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・夜間は1時間毎の巡回を行っている。 ・日中は目配り気配り心配りをして常に入居者の居場所を把握して安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・目につかない戸棚の中に保管している。物品倉庫はカギをかけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	徘徊及び転倒防止策としてベッド横にセンサーマットを設置している。 ・玄関にチャイムを設置している。 ・スタッフはそれぞれの研修に参加し知識を学んで事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・施設内外の研修に参加している。・AEDを設置している。(スタッフ全員研修済み)・消防署への連絡の仕方等簡単なマニュアルを作成し表示している。・管理者・看護師に指示を受けて対応するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・ホーム独自で年3回昼夜を想定して避難訓練を行っている。・本体施設、特養での避難訓練時には地域の人々や消防団の協力を得て行っている。・ホーム災害時も協力していただけるようになっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要な時は家族に説明し、入居者本人に視点を置いた良い方法は何かを話し合っって対応策を決めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っている。・月1回体重測定実施。・排泄チェックや会話による情報収集。・異変に気づいた時は看護師に連絡し指示を受けて対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬チェック表に薬名を記入してあり、与薬者及び与薬時間を記入し飲み忘れがないようにしている。・症状の変化等がある時は看護師に報告・相談している。	○	看護師のみに頼るのではなく介護員も服薬についての勉強が必要と思われる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食事の工夫や毎日の体操及び歩行等の運動の効果で現在はテレミンを使用することは殆どなく自便である。・毎日牛乳200CC摂取週2回バナナヨーグルトを摂取		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	3回/日毎食後、義歯洗浄、口腔内洗浄含む(イソジンガール)を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスを考慮した献立で、個別の状態に合わせた形態の工夫(きざみ食等)を提供している。・水分量は毎食時のお茶、10時に牛乳200CC15時のお茶風呂あがりのお茶で確保している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザは入居者もスタッフも毎年接種し、予防につとめている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食材は毎日新鮮なものを購入している。・毎日冷蔵庫のチェックをおこなっている。・調理用具等は乾燥機で乾燥し、まな板等は毎日ハイターで除菌、アルファ使用・食材にあった管理(要冷蔵・冷凍・常温)にて賞味期限内に食べている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関や建物の周りに花を植え、家庭的な雰囲気作りにつとめている。・玄関を入るとチャイムがなるのですぐに対応し快く迎えるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関にはホームの畑等で育った季節の花等を飾るようにしている。・廊下・リビング等には行事の写真や季節を感じるものを飾りなごやかな空間作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事は気のあった入居者同士が一つのテーブルで食べられるようにし状況に合わせて場所をかえている。・リビングのソファに座るのもいつの間にか席が決まり自分の居場所となっている。・廊下にもイス・テーブルを設置しているのでその日の気分で好きな場所でくつろげる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベッドの位置は本人が使いやすい位置に配置している。・入居者のレベルに合わせてイス・ダンス・テレビ等本人が居心地良く過ごせるようにしている。使いなれたものを自由に持ち運んでもらってホームで作った作品等を飾って落ち着ける場所になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・各居室にエアコンを設置しているので入居者の状況にあわせて温度調整をおこなっている。・天候にあわせて外の空気を取り入れて換気には充分に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物はバリアフリーとなっているので居室から廊下、リビング、トイレ等へ車椅子や老人カーなどでも利用者が自力で移動できる。・廊下には手すりを設置しているので歩行不安定な方には支えとなっている。・水道の蛇口は手を出すだけで水が出るようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・個別の能力を把握し、それぞれの能力に応じて出来ることを支援していく。・個別の能力に応じて、畑仕事、食事時の手伝い、洗濯物たたみ等日常生活の中で役割をもってもらい自信と喜びを持って生活できるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・気候に応じてベランダで食事やおやつの時間を過ごすこともある。・空き地に花を植えて開花を喜び、また、畑で野菜作りをして自分達が栽培したものを収穫し皆で食す喜びを味わってもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①入浴は、入居者の生活習慣の継続を大切に夜間に行っており、安眠効果にもつながっている。②毎日、頭の体操を実施している。午前中実施（DVD見ながらスタッフが助言しながら行う。指折り数数え、掛け算の九九、歌にあわせて軽体操、ラジオ体操等）は、その日の状況でチョイスする。30分程度行っている。午後は、学習療法（計算ドリル等）を行っている。③空き地を利用して、入居者が好きな花を自由に植えて楽しむことができている。④畑で野菜を栽培し、新鮮な野菜で調理ができ、皆で食すことを楽しみとしている。